

巻頭言 「クリスマスはからし種のように」

宇野 元

主イエスは、神の国を、からし種の成長にたとえられました。

神の国は「からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」。(マルコによる福音書4章30、31節)

神の御子が世に来てくださった。聖書が記すクリスマスを、このたとえとともに思いめぐらすことができます。

私たちの思いを超える顧みが、イエス・キリストにおいて証されています。神の子イエスが、私たちと同じ一人の人間となり、私たちのあらゆる苦難を担ってくださったことによって。福音書は、とりわけ、そのはじまりが小さなものであったことを記録しています。世の片隅のような所での出生。そこにも人の愛がありましたが、非常に貧しい環境での出来事でした。その場に立ち会った人々は皆、困窮のなかに置かれていました。クリスマスは大きな喜びの祝いです。いったいそれはどこに生まれるのだろうか？ この世界のどこにあるのだろうか？ 気遣わしげな心の問いに対して、それはからし種のように与えられている、と答えることができるでしょう。そして、この祝いは、蒔かれたからし種が成長するように、確実に増え、ひろがると。

神の子の誕生に駆けつけた、無名の貧しい羊飼いたち。小さなイエスのかたわらにいたマリアとヨセフ。その時の彼らと私たちが、どのくらい重なるか分かりません。けれども、今も困窮があります。苦しむ幼い命、また若い命があります。悩む親がいます。私たちも困窮をかかえる存在です。挫折を体験します。将来への不安に襲われます。眠られぬ夜があります。

からし種のたとえを心にとめましょう。ごく小さなからし種は成長し、その葉の陰に豊かな安らぎの場をつくる。なんと晴れやかに語られていることでしょう。ベツレヘムの世は闇の中にありました。2017年の世界も。私たちも。たしかに、この場所に——私たちの世界、私たちの住まい、私たちの日々の真ん中に、神がクリスマスツリーを植えておられます。とてもつつましく。しかし、風雪に耐えて大きな枝を張る木が。人目を集めるどんな出来事よりも価値をもつもの、神の子の降誕が。聖書の人々と共に、この方のかたわらに立つよう招かれています。